

# チャペル週報

No.7

2025.5.19～5.23

春季宗教運動特集号

きょうだいたち、あなたがたは自由へと召されたのです。  
ただ、この自由を、肉を満足させる機会とせず、  
愛をもって互いに仕えなさい。

ガラテヤの信徒への手紙 5章 13節



神戸三田キャンパスランバス記念礼拝堂

関西学院宗教センター



## チャペル・スケジュール

時間:西宮上ヶ原キャンパス・西宮聖和キャンパス 10:30~11:00 神戸三田キャンパス 10:40~11:10  
場所:各学部チャペル(ランバスチャペルアワーは西宮上ヶ原キャンパスランバス記念礼拝堂)

5月19日(月) 神 アジア祈祷日を覚えて  
人 井上 有希子(グループホームあすなろサービス管理責任者)  
建 Eco-Habitat 関西学院  
短大 山内クラス ダッドレーチャペル

### 5月20日(火) 大学合同チャペル -建学の精神-

西宮上ヶ原キャンパス(10:20~11:10) 会場:中央講堂  
「大いなるサービス」 中道 基夫(院長)

神戸三田キャンパス(10:30~11:20) 会場:VI号館101教室  
「建学の精神について」 細見 和志(総合政策学部教授)

西宮聖和キャンパス(10:20~11:10) 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル  
「やっぱりフォア・サービス」 土井 健司(副学長)

### 5月21日(水) 大学合同チャペル -建学の精神-

西宮上ヶ原キャンパス(10:20~11:10) 会場:中央講堂  
「やっぱりフォア・サービス」 土井 健司(副学長)

神戸三田キャンパス(10:30~11:20) 会場:VI号館101教室  
「大いなるサービス」 中道 基夫(院長)

西宮聖和キャンパス(10:20~11:10) 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル  
「建学の精神に問う、私は誰ですか」 今津屋 直子(副学長)

5月22日(木) 神 平和を創る④ 森本 典子(神学部専任講師)  
文 Andreas Rusterholz(宗教主事)  
社 ボランティア活動支援センター 打樋 啓史(宗教主事)  
法 賛美歌指導 関西学院聖歌隊  
経 関西学院の歌① 舟木 讓(宗教主事)  
商 木原 桂二(宗教主事)  
人 井上 智(宗教センター宗教主事)  
国 Chapel in English 李 善恵(宣教師、人間福祉学部教授)  
総 特定非営利活動法人 メインストリーム協会  
短大 貴田 直樹(初等部聖書科教諭)

5月23日(金) ランバス 関西学院のこころ③ 井上 智(宗教センター宗教主事)  
神 契約更新礼拝 ウェスレー兄弟の回心を記念して 水野 隆一(神学部教授)  
文 Chapel in English Andreas Rusterholz(宗教主事)  
経 関西学院の歌② 舟木 讓(宗教主事)  
理・工・生環 Christian Triebel(宣教師、学長直属准教授)

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:10~8:30 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

5月23日(金) 人間福祉学部のために 山 泰幸(人間福祉学部長)

Zoom でのご参加希望の教職員・学生等の方は、QRコードを読み込みお申込みください。



# 大いなるサービス

中道 基夫

関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”には、二つの方向性があります。一つは、自分がマスター（修得）したものを、他者や社会のために用いるということ。もう一つは、他者や社会に奉仕するために必要なものを Master（修得）するということです。どちらが正解というわけではありませんが、ここでは後者の方向性について考えてみたいと思います。

マタイによる福音書 25 章には、「あなたがたは、私が飢えていたときに食べさせ、喉が渇いていたときに飲ませ、よそ者であったときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに世話をし、牢にいたときに訪ねてくれた」と語られています。そして、「これらの最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである」と、その行為が称賛されています。ここでは、利他的な生き方の大切さが示されているのです。もちろん、四六時中他者のことを考えているわけではありませんが、誰かが困難や問題に直面していると感じたとき、自分の中のスイッチが利他的な考えに切り替わることが大切だと言えるでしょう。そしてまた、他者がどのような困難に直面しているかを見出し、それに共感する力を持つことも重要です。

関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”を提唱したベーツ第 4 代院長は、関西学院創立 70 周年記念講演（1959 年 10 月 28 日）において、「(関西学院の)mission は、できるだけ大いなるサービスをすることです。それは関西学院の destiny であり、関西学院の future です」と語りました。他者への奉仕から始まり、社会や世界が直面する課題に取り組む「大いなるサービス」という視点を、私たちも持ちたいと思います。

特に今日、環境破壊や格差拡大によって世界の隣人たちが脅かされています。今、地球規模の危機に関わるサステナビリティの課題に向き合うことも、「大いなるサービス」の一つだと言えるでしょう。「そんなことは私には関係ない」という思いが私たちの心に浮かぶこともあるかもしれませんが、しかし、その隣人たちの困難に私たちは気づいているでしょうか。そんなとき、「これらの最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである」という聖書の言葉を思い出してください。

(院長)

## やっぱりフォア・サービス

土井 健司

昨年の大学合同チャペルでは Mastery for Service というスクールモットーについて、マスタリーということとサービスとが緊張関係にあると話をしました。自己が主人となるべくマスターするわけですが、実はこれが他者に仕えることに向かうわけですね。培った力を用いて他者に仕えるというと自然なことのようにも見えますが、自分の持てる力は普通自分のために使うものです。ところが他者のために用いなさいというわけで、「どうして？」と思うのが普通です。こうした相矛盾するものを繋げたり、対比させる考え方はキリスト教思想史のなかで繰り返し登場します。

410年ローマ帝国の永遠の都ローマはアラリック王が率いる西ゴート族に襲われました。すでに皇帝は居なかったとはいえ、帝国にとって永遠の都であるローマが蛮族に蹂躪されたこの出来事はローマ帝国全土に衝撃を与え、異教側からキリスト教に対して非難・批判の聲が上がりました。簡単に言えば、ローマ古来の宗教を捨てキリスト教を国教としたため伝統的な神々の怒りをかったのだと。これに対して反論を試みたのが有名なアウグスティヌスという司教でした。412年から『神の国』を執筆しはじめ、426年に全22巻を完成させました。この中でアウグスティヌスは「地の国」と「神の国」を対比させ、一方を自己愛、他方を神への愛によって特徴づけ、この世の歴史と社会はこの二つの愛の混ざり合いのなかにあると論じたのでした。自己愛とは自分を中心にして生きていくことで、神への愛は、自分以外の他者に向かった愛であり、その究極に神がいます。一方は傲慢で自分の欲を満たし繁栄を目指すのに対して、他方はとにかく他者のために考え、働く。ここには老アウグスティヌスの人間観が凝縮されています。

世の中で生きていくのは実に大変なことで、大学で学びつつ卒業を目指し、就活に忙しくするのはとりあえず自分の為、それが悪いわけではありません。しかしそれだけでは人生において自分しかいなくなり、了見も狭まり、自己中心的になってしまいます。自分の為が悪いわけではないとしても、それでも「やっぱりフォア・サービス」、ここに建学の精神があるのではないかと思うのです。

(副学長)

## 建学の精神に問う、私は誰ですか

今津屋 直子

私は誰なのか。ここでは、自分のやりたいこと、自分に適した職業、そして夢の実現を探すことではなく、何のために生きるか、どう生きるかを問うている。本学はキリスト教主義に基づく全人教育を理念としている。学生の皆さんには、関西学院が何を大切にしているのかを考え、行動し、聖書や讃美歌のことばに耳を傾ける、そのような機会を通し、体験を重ねながら、私は誰なのか、どう生きるかという問いに向き合って欲しい。

本学の卒業生に坂本遼という詩人がいる。坂本が在籍した1923年から1927年の関西学院はベーツ先生が院長の時代で、Mastery for Serviceはすでにスクールモットーとして提唱されていた。文学部英文学科に入学した坂本は、生涯の友になる仲間や恩師との出会いによって、文学の研究や詩の創作活動に打ち込んでいく。坂本は卒業の年に人生において最初で最後の詩集「たんぽぽ」を刊行する。関西学院時代の坂本は幸せに満ちた、充実した日々だったのではないかと想像する。しかし、卒業後の彼は、創作活動を続けることなく、家族を養うために就職する。40歳を過ぎて、関西学院で出会った友人に誘われ、児童詩雑誌「きりん」の編集に関わり、子どもたちの綴り方（作文）指導にも力を入れていくことになる。

坂本の小説「きょうも生きて」の巻頭には「人は苦しみによって苦しみから救われる」とある。これは登場人物である小久保先生が子どもたちに話した旧約聖書ヨブ記の言葉がもとになっていると思われる。学生時代の坂本は、宣教師達と交流し、キリスト教や異国の文化に触れる機会が多くあった。そんななか、己のアイデンティティは故郷にあることに気がつき、農村や母をテーマにした詩作につながった。Mastery for Serviceの精神のもとで学び、キリスト教やその文化の世界に素直に身をおいたことは、彼にとってどんな意味があったのだろうか。彼の生き方には、子どもに愛情を注ぎ家族のために働き続けた地に足のついた母の生き方が影響しているが、後半生、生業に加えて再び創作活動の道に進んだのは、関西学院との関わりを経て、私は誰なのか、どう生きるか、生涯を通して問い続けてきたからこそ選択できたのではないかと思う。

(副学長)

## 建学の精神について

細見 和志

『聖書』はある意味で「手紙」のようなものだ、と私は思います。送り手（贈り手）は「神」様。受取人は人間です。私たちは誰も発信者である「神」に会ったことも、「神」の姿を見たこともありませんが、『聖書』は確かに現実に私たちの目の前にありありと存在しています。

「手紙」には必ず何かしら送り手が受取人に伝えたいことがあります。『聖書』は「神」がなんとしても人間に伝えたいメッセージで溢れています。一言ではうまく伝わらないので、たくさんの神のメッセージが集まって、私たちが今手にしているこのずっしりと重く分厚い『聖書』になったのです。

では「神」はわざわざ人間にこれまで何を伝えようとしてきたのか、あるいは今もなお伝えようとしているのでしょうか？

それがはっきりとわかる聖書の箇所があります。「マルコによる福音書」第10章42節から45節にあるイエス・キリストの言葉です。「あなた方の中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、あなた方の中で、頭になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。」

なぜ「神」は人間に向かって（特に「偉くなりたい人」に向かって）「仕える者」になることを求めるのでしょうか？

「仕える者」とは、例えば貴族の召使のような人です。屋敷の維持・管理、食事・子どもの世話に至るまで、あらゆる仕事を任されています。屋敷の主人は召使がいなければ、ゴミだらけの荒れ果てたカオスのような屋敷に住まなければなりません。

召使の仕事をこなすには、体力と知力が必要です。優れた召使のいるお屋敷はいつでも清潔で秩序が保たれています。「偉くなりたい人」は体力と知力に優れた人なので召使にぴったりなのです。

「神」は「偉くなりたい人＝優れた人」に神が創造した世界の秩序を保つ仕事（召使）を任せたいのです。その人に世界の秩序をカオス化の淵から守ってほしいのです。

関西学院のスクールモットーである「Mastery for Service（人の役に立つために、自分を磨き、優れた人になりなさい）」は、まさに人間に対する「神」の願いを言葉にしたものではないでしょうか。そしてそれは、関西学院を創設した人たちの願いでもあるのです。

（総合政策学部教授）



## ●院長室から発信！ビデオメッセージ「風に思う」配信のご案内

関西学院はキリスト教主義教育を理念として、Mastery for Service というスクールモットーを持っています。メッセージビデオ「風に思う」では、関西学院の土台である聖書の言葉やキリスト教の思想をもとにした院長室スタッフからのメッセージや、学院で Mastery for Service の精神を体現する学生団体等と院長との対談をお届けします。皆様の心の糧となれば幸いです。

<https://ef.kwansei.ac.jp/about/kazeniomou> 「風に思う」関西学院 院長室からのメッセージ(HP)

## ●夕の礼拝のご案内

関西学院では、2025 年度より「夕の礼拝」を始めます。勉学や仕事終わりなどに、どなたでもご参加いただける礼拝です。パイプオルガンの音に耳を傾け、賛美歌を歌い、聖書の言葉に聞き、日々の忙しさと喧騒の中で、こころ静かに過ごすひと時となれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしています。オンライン配信も行います。

日時・場所：5月27日(火)17:10～ ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

テーマ：「向こう岸に」

司式：打樋 啓史(宗教総主事) メッセージ：中道 基夫(院長)

主催：関西学院 共催：関西学院宗教活動委員会

問合せ：学校法人関西学院総務部 TEL. 0798-54-6740

視聴用 URL： <https://kwansei-gakuin.zoom.us/j/92211178017>



## ●チャペルオルガニスト募集

チャペルオルガニストの2次募集をします。5月31日(土)にオーディションを行います。採用されますとパイプオルガンで個人レッスン(有料)を受けることができ、チャペルの奏楽をはじめ、発表会、研修会、コンサートなどを通して、教会音楽を中心とした幅広い知識、技能を身につけることができます。

チャペルオルガニストについて(応募資格・条件等)は、右記 QR コードをご覧ください。

受付締切：5月28日(水)16:50

問い合わせ・資料請求：宗教センター オルガニスト募集担当

電話：0798-54-6018 E-mail：[organist@kwansei.ac.jp](mailto:organist@kwansei.ac.jp)



## ●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急大阪梅田駅から徒歩すぐ、アプロースタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の月1回チャペルアワーを実施しています。場所は1405教室です。どなたでもご自由にご参加ください。

6月19日(木)17:50～18:10 井上 智(宗教センター宗教主事)

## ●大学キリスト教週間 宣教師企画 NUCチャペル・ツアー

西宮上ヶ原キャンパスにあるチャペルを見て回ろう!

日 時 : 5月23日(金) 13:20~15:00

集合場所 : ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

対 象 : 新生及び興味ある学生

定 員 : 20名

※参加したい方は、右のQRコードよりお申し込みください。



## ●ランバスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスの正門を入れて右手に見えるチャペル「ランバス記念礼拝堂」では、礼拝はもちろん、コンサートや式典、講演会、結婚式などが行われています。4月から関西学院大学内の様々な音楽団体によるヌーンコンサートが開かれています。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

5月26日(月) 関西学院バロックアンサンブル

6月3日(火) 関西学院交響楽団

6月24日(火) 関西学院ハンドベルクワイア

6月27日(金) 混声合唱団エゴラド

7月3日(木) 関西学院聖歌隊

いずれも 12:45~13:15 <入場無料>

場 所 : ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

主 催 : 宗教センター・宗教音楽委員会

## ●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝

授業期間中の第2・第4日曜日(原則)の10:00~11:00に関西学院会館ベーツチャペルでは日曜礼拝を行っています。どなたでも(クリスチャンでなくとも)ご参加できますのでどうぞお越しください。

5月25日(日) 10:00~11:00

### ◆CDライブラリー利用について

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

### ◆使用済み切手収集にご協力ください

本学では「日本キリスト教海外医療協会(JOCS)切手部」の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますので、どうぞ吉岡記念館事務室へお届けください。

<郵送先>

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155 関西学院吉岡記念館事務室宗教センター宛

### ◆盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。